opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 - 27

スペイン内戦が始まると、革 命グループはマドリ舎にごの あったいの兵舎に武器 を要求に屈しなかがいた 聖ホセマリかいにあり と、聖 なの が、学生寮の した。

2023/11/04

過去の記事はこちらから

スペイン内戦が始まると、革命グ ループはマドリードにあったいくつ かの兵舎に武器を渡すよう要求しま した。この要求に屈しなかった兵舎 が、聖ホセマリアがいた新しい学生 寮の真向かいにありました。7月20 日朝、革命派が攻撃を始め、激しい 戦闘となり寮にも銃弾が飛んできま した。兵舎は昼前に陥落。破壊され た壁の間から死体が見えました。武 器を奪って勝ち誇った革命派の民兵 が街路に溢れているなかを、作業服 に着替えた聖ホセマリアはイシドロ と一人の学生とともに母の家に歩い て行きました。この際、神父は聖職 者の印である剃髪を残したまま歩い たのですが、不思議なことに誰もそ れに気づきませんでした。

町では恐ろしい司祭と修道者狩りが始まりました。母の家の下の家には共産党員の女中がおり、上の階に司祭がいることに気づいているようでした。8月8日、アパートの門番が

「手入れが始まる」と知らせてきました。聖ホセマリアは間一髪で脱出しましたが、これが1年3ヶ月続くこととなる放浪の旅の始まりでした。

神父はメンバーや友人の協力であち こちに隠れ家を探しました。司祭を かくまっていることがわかれば銃殺 されることは間違いないので、門前 払いもしばしばでした。ある友人の 家にいたとき、捜索隊がやってきま した。打ち合わせ通り、高齢の女中 がドアに行き聞こえないふりをして 民兵と押し問答をしているうちに、 神父は二人の人とともに屋根裏部屋 に隠れました。一人はホアン・ヒメ ネス・バルガスというメンバーでし たが、もう一人は知り合いではあり ませんでした。狭く暑苦しい部屋に 息を潜めている中で、神父は彼に自 分の身分を明かし「私たちは極めて 危険な状況にある。私は司祭です。 もし望むなら、赦しを与えます」と 告げました。二人は赦しを受けまし

た。後に彼は「あのとき司祭の身分を明かすのは非常に勇気がいることでした。見つかったなら、私が裏切って神父を売る可能性だってあったのです」と証言しています。幸い捜索隊は帰って行きました。

この後も隠れ家を探す苦しい旅は続き、9月初旬にアルバロが身を寄せていた家に到着します。ここでしばらく過ごしオプス・デイの創立記念日を迎えるのですが、その前日に聖ホセマリアは興味深い体験をしました。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/seijosemaria-27/ (2025/11/21)